

ライオンズクラブ国際協会 330-A地区
綱紀指導委員会 意見交換および討論会

2011年6月1日(水) 17:30～18:45

新宿京王プラザホテル (御岳)

司会者(コーディネーター): 綱紀指導委員会委員長 L海渡一智

出席者: 地区ガバナー L河合悦子

第一副地区ガバナー予定者 L阿久津隆文

第二副地区ガバナー予定者 L鈴木定光

綱紀指導委員会スペシャルアドバイザー L野村栄樹

(出席予定であった大石ガバナーエレクトはご都合により欠席)

＜要録＞

①趣旨説明

②委員会アンケート結果の報告

＊ 第2副地区ガバナー選挙について

＊ 地区内の問題点について

③大震災の今後の奉仕について

④法人化について

⑤現在～未来に向けてのライオンズ

司会者: 委員会で行ったアンケートの結果について概要を説明しましたが、まず東日本大震災に関連した今後の奉仕活動について皆さんよりご意見をいただきたいと思います。

河合G: 東日本大震災への対応についてですが、これまでの経過とこれからの展望についてお話しします。3月11日はまさしくフォーラム&チャリティコンサートの当日であり、何か運命的なものを感じます。大地震発生以降、日本中の動きはすべて震災に向けてになりライオンズの活動も例外ではありません。地区キャビネットとして募金活動、被災者支援物資の運搬・寄贈などを積極的に各クラブに呼び掛け、またキャビネット自身も行動・実行して大いに貢献してきました。大震災義援金として@3,000円×メンバー数の協力を各クラブにお願いし、その金額約1,900万円ほど集まっていますが、これはLCIFを通して被災者支援に使われる予定です。一方、各クラブの募金・支援金のうち、地区キャビネットの口座で預かっているものがありますが、これらは今期末までに現金で被災地のライオンズクラブすなわち332-B(岩手)、332-C(宮城)、332-D(福島)の3地区宛てに(LCIFの比率に準じて)30%、40%、30%の割合で渡したいと考えており、さらに詰めてからキャビネット会議に提案するつもりです。また全日本レベルで「東日本大震災復興支援対策委員会」という名称の組織を立ち上げ、複合地区、準地区においてもそれに準じる動きが具体化しています。6月11日には被災地である332-C地区より田畑ガバナー以下30～40名のメンバーが上京して数寄屋橋交番付近で募金活動をする予定があります。

阿久津L：参考になるかどうかわかりませんが、私の所属する3R3Zではゾーン合同で募金活動をしてその資金で茨城県産それから福島県産の野菜を購入し、表参道で3回無償配布し被災地支援を呼びかけました。それを機にゾーン内クラブのアクティビティの活性化も同時に行われたのではないかと思います。募金の時に一番言われたことは、「この募金は本当に被災者にすぐに届けられるのでしょうか」ということでした。現在地区キャビネットで預かっている募金等は速やかに被災地に送るべきものと思います。現在の状況ですが、支援物資は集積拠点のレベルではかなり充足して来ています。問題はその物資を末端まで届けるための運搬の手段で、たとえば運搬の手段としての中古車購入、そのための資金を提供するべき時ではないかと思います。被災地支援の特別委員会の件ですが、私個人の意見としては3年間継続のプロジェクトチーム的な組織にした方が、今までの経験が生きるし、各クラブへの情報提供という意味でも役に立つのではないかと思います。

5月3日、石巻市の避難所へ出前寄席のアクティビティを行いました。被災者の皆様に非常に喜ばれました。被災者支援の方法はいろいろあると思います。

鈴木L：先日、指導力・若手育成委員会の委員長に誘われて仙台に行ってきました。現地で今一番必要なものはお金であると皆さんより聞きました。救援物資を提供されても、被災地の経済復興には役に立たない、資金をいただきそれで現地において物資を購入することが被災地にすれば一番ありがたいとお話です。その意味でもいま地区キャビネットでお預りしている募金・支援金は速やかに被災地に送って、復興に役に立つようにしてもらいたいと思います。震災復興計画の実施は15年以上継続するでしょう。ライオンズにおいても長期的な支援の体制について話し合いの上、組み立てていきたいと思います。

司会者：被災地に対し330-A地区が継続的に支援していくことについて確認されたと思います。次に大石ガバナーエレクトが提唱している法人化について皆さんの意見をお聞きたいと思います。

阿久津L：法人化ということの意味が大事だと思います。公益法人とは国の制度で、広く遍く公共の利益に供することを旨としますので、その行動についてはかなりの制約があります。大石Lが最初に考えておられたのは社団法人という形態だったと思います。ただ社団法人は政策等が中心の法人であり、助成等は財団法人が主であるので財団法人への検討をなされるようになったと思います。

河合G：ライオンズクラブの法人化ということが最初に取り上げられたのは随分前のことだと記憶します。ただこれについて全日本のレベルで意見が一致するのは非常に難しいと思います。

阿久津L：ライオンズ日本財団は公益財団法人として約20年前より稼働しています。総務省管轄の優良な公益法人です。330-A地区が法人格をとるにはいろいろな形態が考えられますが、出来れば全日本レベルで取り組んだ方がいいと思います。法人化によって得られるメリットは様々の方面であります。

鈴木L：法人化については慎重に時間をかけて検討していくべきと考えます。

司会者：ここ3年は（第2）副地区ガバナー選挙は行われずに年次大会としては平穏になっています。ただ過去には日本財団派、非財団派と別れて誹謗中傷、怪文書と非常に望ましくない事態が選挙に関連しておきました。選挙制度について皆様のご意見をお聞きしたいと思います。

野村L：日本財団の場合は国際本部よりの各クラブへの通達文書にも関連して、微妙な問題を抱えています。

司会者：ライオンズクラブの財団を作るのは個人的にはいいことだと思っています。

河合G：そうですね。皆さん総論賛成ですが、具体的になるとなかなかうまくいかない状況になっていると思います。

阿久津L：現在あるキャビネット事務局事務所取得目的の社団法人の運営の問題点をまず解決して、すっきりさせないとなかなか話が進まないと思います。皆さんでしっかり勉強すべきだと思います。

司会者：先に委員会としてアンケートを実施しましたが選挙のシーズンを前に、選挙倫理について全メンバーに再度認識をさせたことについて一定の効果があったと思います。

河合G：選挙規定はありますが、罰則規定がないのでザル法にも思えることがあります。

阿久津L：選挙規定違反者は公表されるということにより、一定の違反抑止効果があるのではないかと思います。

司会者：地区ガバナー、第一副地区、第二副地区ガバナーの三者が地区運営の方針についてよく話し合い地区の運営に継続性をもつことが重要と思います。これが実践されることにより地区のもめごとが起これなくなると考えます。

司会者：最後に現在～未来のライオンズについて一言ずつお願いします。

河合G：メンバーの質の向上が課題と考えます。

阿久津L：クラブの活性化、クラブ主体のキャビネット運営を考えています。

鈴木L：クラブの主体的な活動をサポートしていきたいと考えています。

阿久津L：ライオンズデーでの一斉活動については大事にしていきたいと思います。

野村L：メンバーの質の向上と、上位ライオンのリーダーシップについてと思います。

司会者：活発なご意見により中身の濃い討論会になりましたこと感謝申し上げます。

以上